



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 西条市立周布小学校 】

| | |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ | Ⅲ・Ⅴ |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 講演と車いすバスケットボールの体験・・・第4学年34人 ボッチャの体験・・・3～6年生（107人） ゴールボールの体験・・・3～6年（107人） |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動次の5つの中から選択し○をつけてください【複数選択可】 ① 教科名(体育) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他() |
| 4 目標 (ねらい) | ・パラスポーツを通して共生社会について考え、理解することができる。 ・オリンピック・パラリンピックの意義を理解し、スポーツを楽しむことができる。 |
| 5 取組内容 | <p>事前学習やパラスポーツの体験は、「I' m POSSIBLE」と「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」を活用して授業を進めた。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックってなんだろう？(I' m POSSIBLE 1-1) ・パラリンピックスポーツについて学ぼう(I' m POSSIBLE 2-1) <p>「I' m POSSIBLE」のスライドをもとに、クイズ形式で、パラリンピックの意義、パラスポーツの種目やルールについて学習した。</p> <p>ボッチャの体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャをやってみよう！(I' m POSSIBLE 2-4) <p>全校児童が体育科の学習の中で1～2時間程度、ボッチャの体験をした。ボッチャというスポーツを初めて体験する児童が多く、楽しく実践することができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ゴールボールの体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールをやってみよう！(I' m POSSIBLE 2-3) |

3～6学年の児童が体育科の学習の中で1単位時間、ゴールボールの体験をした。ゴールボールというスポーツを初めて体験する児童が多く、楽しく実践することができた。ボールが硬く、重いため、ボールが当たることに対する不安がある児童もいたため、「みんなが楽しめるようにする」ことをめあてに、ルールや実施の仕方を工夫して行った。ルールの例として、「浮かしたボールは投げない。」「お互いがぶつからないように立ち位置をずらす」などを考えた。



講演

3、4年生53名が参加し、本校体育館にて、愛媛県車いすバスケットボール協会の國本さんに来ていただき、共生社会について講演いただいた。「図書館の本をとる」ことを具体例として、自分が周りの人に支えられていること、自分が薬局で働くことで周りの人を支えることもできるということをお話しいただいた。そして、一人一人を認めたり自分や友達のよいところを見付けたりすることが大切で、みんなが住みよい社会をつかっていくことが、共生社会の基本的な考え方であることを子どもたちは理解できた。



車いすバスケットボールの実演もしていただき、シュートやパスを見せていただいた。ゴールが決まったときには拍手が起り、講師の方の技術の高さに感心した。

車いすバスケットボールの体験では、4年生33名が行った。車いすに乗った状態で、鬼ごっこやリレーを体験した。操作の難しさを感じた一方、活動の楽しさを十分感じることができた。また、パラスポーツへの関心を高めることができた。今回は十分な時間がなかったため、ボールを使ったドリブルの練習やシュートの練習ができなかった。ドリブルやシュートの動きを体験できれば、車いすバスケットボールへの興味をより促すことができると思う。スポーツ競技を通して、障がいがあっても生き生きとしている様子を見せていただいた。障がいのある人との肯定的な出会いは子どもたちにとってよい経験となった。

ケーブルテレビ局に取材に来ていただき、オリパラ教育についての広報活動も行うことができた。



事後学習

・4年生は総合的な学習の時間「体の不自由な人の気持ちを考えよう」の学習につなげていく。

・学習のまとめとして、「I'm POSSIBLE」での、パラ陸上の伴奏者の映像を見せた。競技をすることだけでなく、運動を見たり支えたりすること、そして応援したりすることが大切であり、生涯にわたって、スポーツに関わっていけるよう、これからの体育科の授業で運動を通して学んでいこうと児童に伝えた。

6 主な成果

・パラスポーツを通して共生社会について考えることができた。それぞれの学年が学年にあった事後学習につなげ、理解を深めた。

・オリンピック・パラリンピックの意義を知り、体育科の授業でのスポーツを、より楽

| | |
|--------------------------|--|
| | しむ心情が芽生えた。 |
| 7 実践において工夫した点 (事業の特色) | <ul style="list-style-type: none"> ・バラスポーツの道具を2週間お借りして、体育科の学習の中で体験した。他の学年が続けて同じスポーツを実施できるようにしたことで、体育館の用具の準備やコートなどの準備を軽減することができた。 ・I'm POSSIBLE のデータを活用し、本校の各クラスに設置されている電子黒板で大きく表示したり、映像も見せたりすることで、児童の関心を高めることができた。 |
| 8 主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の教科との関連を図り、年間計画に位置付けると、より効果が期待できる。 ・どの学年も、楽しくバラスポーツを体験することができた。今年度は、全学年同じ内容で実施した。系統的に学んだり、次学年とのつながりが持ったりできるよう、学習内容の割り振りや時間配分などを検討する必要がある。 |
| 9 来年度以降の実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験したことのないシッティングバレーボールや5人制サッカーなどを体験したり、誰もが取り組み、楽しめる「ゆるスポーツ」なども実施したりしてみたい。 |